

【結果公表】

弥富市総合計画基本計画(案)に対するパブリックコメントの実施結果については、以下のとおりです。

案件名	弥富市総合計画基本計画(案)		
募集期間	平成20年7月4日(金)～平成20年8月4日(月)		
担当課	総務部企画政策課企画政策グループ		
募集結果の概要	弥富市総合計画基本計画(案)に対する意見を募集した結果、12人の方から24件の意見が提出されました。		
意見提出数	持参	6人	13件
	郵送	0人	0件
	ファクシミリ	1人	1件
	電子メール	5人	10件
	合計	12人	24件

提出された意見と市の考え方

NO	意見の内容	意見に対する市の考え方
1	<p>海南病院が大変人気あるとか</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療の町に変身して、愛知県中から人を集め活気ある町にする。それには医科大学を、なんとしても誘致する。</li> <li>2. 医療街を作る。小学校を移動して、個人専門病院誘致する。大駐車場を作る。</li> <li>3. 商店街の活性化・・・駐車場から病院へ行く道路サイドに商店街を作りせっかくの出入を逃がさないように。</li> <li>4. その他保養所、ホテル、喪儀場、各種デイサービス、療養温泉施設等</li> </ol> <p>金魚・文鳥ノアピール</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 一号線弥富市になったところに10メートル位の大看板の設置すること。</li> <li>2. 金魚の水族館の大きなものを作る。文鳥と遊べる文鳥館を作る。</li> <li>3. 全国金魚大会、金魚すくい大会、各商店街ではいつでも金魚すくいができるようにする等行うこと。</li> </ol>	<p>医療を中心としたまちづくりの提案をありがとうございます。ただし、市としては、今のところ、このようなことについては検討しておらず、また、市だけでなく、関係機関や民間の動向に大きく左右される問題ですので、今回の総合計画への掲載は控えさせていただきたいと思います。将来的なまちづくりの提案の一つとしてお受けし、今後検討していきたいと考えます。</p> <p>また、金魚・文鳥などの本市の特産品のブランド化やPRについては、市としても非常に重要なことと認識しています。このことは、基本計画(案)P84の(3)や(8)に方針を示しており、今後、ブランド化やPRの支援、観光と結びついた振興策の検討・推進に努めていくこととします。</p>
2	<p>○ 木曾川を利用して収入の入る様なことを計画したと思います。たとえば水上ボートの発着場として、又、しじみの種をまき養殖して、収入につなげるとか。長島の花火大会をゆうらん船で見学するとか。地元にある物産を即売するとか。無人売店等も良いと思う。弥富の駅周辺があいているので考えたらどうでしょう。帰る客も(そこで物産などが買えるので)重くなく帰られると思う。</p> <p>○ ヤトミブランドで売る。</p> <p>○ 青なみ線(各駅)を湾岸道路に沿う位置に引いて南の方に交通の足をつくる。</p> <p>○ 名古屋競馬場をもってくる(トレセンと近いので良いと思う)(今死んでいる土地を利用する)</p> <p>○ 観光バスが来る様に金魚神社を作り金魚すくい大会も開く。子供達に遠足にも来てもらい参拝のあと100円位いですくわせ、スタンプカードもつくり、5回来たら5匹プレゼントとか。色々考えて世界の弥富金魚をピーアールする。</p> <p>○ 市内にある墓地を潮見霊園に持って行き空墓地をうめる。市内のバスが必ず行くようにする。休憩場も使いやすく、お参りの後お茶を飲んでバスの時間をゆっくり待てる様に、孫づれがきたら、おもちゃとか、ローリー位をプレゼントする。孫までいつてくれる様なお墓がいいと思います。</p>	<p>観光を中心とした具体的な提案をありがとうございます。これらのうち、地元産品直売所については、基本計画(案)P84の(5)に、弥富ブランドについてはP84の(3)に、潮見台霊園についてはP28の(6)に、それぞれ方針を示しており、これに基づく取り組みを進めていきたいです。また、これら以外の提案については、今のところ、市としては検討しておらず、また、市だけでなく、関係機関や民間の動向に大きく左右される問題ですので、今回の総合計画への掲載は控えさせていただきたいです。将来的なまちづくりの提案の一つとしてお受けし、今後検討していきたいと考えます。</p>

<p>3</p>	<p>① J R 弥富駅西側の踏切りについて</p> <p>J R 名鉄弥富駅西側の踏切りは、毎朝 8 時前後の時間帯にはきびしい車等の渋滞となっています。一部の車でも近くの他の踏切りへ回避し回ることが出来れば車の流れはよくなります。</p> <p>朝の通勤時間帯には電車や貨車の便数も多く名鉄と J R の列車の通過が重なると遮断機は降りっぱなしです。電車の通った後の踏切りは車がすれちがうことが出来ないほど狭く、車の流れはロック状態です。</p> <p>名鉄電車線北側の道路の拡幅をお願いします。</p> <p>名鉄電車線には、複線用の用地が確保されていますが、J R 弥富駅には、名鉄は今のところ乗り入れは出来ません。</p> <p>名鉄電車線の線路を南側に寄せれば線路の北側の道路を拡げることは十分可能です。</p> <p>名鉄電車は公共性企業です。積極的に説得して働き掛けていただければ名鉄電車も協力して道路の拡幅は十分可能と思います。</p> <p>② J R 名鉄弥富駅の階上化</p> <p>J R 弥富駅の西側と東側の両側の踏切りは踏切り間の間隔が広く J R 線路が北側と南側の交流の妨げとなっています。</p> <p>J R と名鉄の弥富駅を階上化することにより駅の利用者は北側から南側へ回る必要はなくなります。</p> <p>弥富駅の階上化をお願いします。</p> <p>弥富駅の階上化には駅前広場が問題です。</p> <p>駅の階上化に伴う駅前広場の確保は現在の用地に少し広場の用地の拡幅が必要となりますが、現在有る用地の効率利用と工夫により小幅の用地拡幅で広場の実現は可能です。</p> <p>駅前開発には将来的に駅周辺、周囲帯を総合的に整備する考えは必要です。現実にも今有る計画は大きすぎて計画の段階でいつも見通しがなされて長年の間計画は前へ進んでいません。</p> <p>将来性や総合性も考えとして考慮しつつ計画を進め出来るところはやる。やれるところはやる。</p> <p>計画も実行されれば、人々の生活も快適で便利になります。</p> <p>計画の改善、実行をして下さい。</p> <p>計画を実現出来るようお願いします。</p> <p>③ 近鉄弥富駅前北側広場の整備</p> <p>近鉄弥富駅前北側広場は人や車の交通量が多く、J R 名鉄弥富駅東側の踏切り方面より南進して来る車と、J R 名鉄弥富駅方面より南進して来る車と近鉄弥富駅の北側で合流します。合流した車で大変な混雑です。</p> <p>近鉄弥富駅北側への道路はどれも片側一車線有ります。</p> <p>近鉄弥富駅西側の踏切りの遮断機が降りると車の渋滞や車の混雑は交通に危険な状態です。特に朝や夕方から夜にかけての時間帯はキビシイ渋滞が続いています。</p> <p>近鉄弥富駅へ所用の車が一時的に駐車する駐車スペースがあれば車の渋滞はなくなります。</p> <p>たびたび無理な車の運転をして、車の接触事故が起きています。</p> <p>駅前での車の事故を無くす為にも、駅へ来る車や駅への送り迎えの車が気軽に車を駐める駐車スペースを作して下さい。毎日朝、夕には常時タクシーと迎えの車で 20 台ぐらいの車が駐車します。</p> <p>駅前地区の総合的な整備計画は大切ですが、まずは現状の改善が必要です。車が安心してスムーズに流れるよう道路の拡幅をお願いします。</p>	<p>駅周辺の整備についての具体的な提案をありがとうございます。駅周辺の整備については、市としても、今後の大きな課題として認識しており、基本計画（案）P 7 の（2）の②や P 1 2 の（6）に方針を示しています。今後、これらに基づき、市民のみなさんとの協働のもと、J R ・名鉄弥富駅の橋上駅舎化、駅周辺の道路の整備及びバリアフリー化をはじめ、駅周辺市街地の一体的な整備に向けた取り組みを進めていきたいと考えます。</p>
<p>4</p>	<p>○ 弥富埠頭横 ゴルフ場に風力発電基地</p> <p>太陽光発電も欲しいです。</p> <p>○ 鍋田川跡（今は草生っぱなし）弥富の交通便性を生かした工場の誘致をお願いします。</p> <p>○ 学校の食育をお聞きます。十年後の食糧危機の為に学校近くの農地で作物の作り方を教えて欲しいです。老人パワーと学生と一緒に食するのも良いと思います。</p>	<p>風力発電や太陽光発電などの新エネルギーの導入については、基本計画 P 2 0 の（6）に示したように、太陽光発電の導入に向けた取り組みを進めていきたいと思っています。</p> <p>工場の誘致については、P 9 0 の（3）に示したように、港湾地域と、その背後地への誘致を考えています。</p> <p>食育については、P 6 5 の（2）の③に示したように、積極的に推進することとします。</p>

<p>5</p>	<p>(1) 土地の有効利用に関して</p> <p>情報・通信の高度の発展、開放経済システム等々総ての面で世界的な視点で対処しなければならぬ時代になった。</p> <p>今は地球温暖化が大問題として叫ばれて居るが、やがて地球規模での資源・エネルギーが問題になってくるであろう。施設は一度設置されると、そんなに簡単には変更出来ないものであるから10年先のことまでしか考えないと云うのでは無く、30年、50年先まで掛るような構想の事業でも今とりあげて計画に入れて置き度いものである。(理想に向かって進む姿勢)</p> <p>将来、木曾岬町、飛島村、蟹江町等々との合併をも視野に入れ対処出来る土地利用計画があっても良いのではないか?</p> <p>食料自給率の低い日本は、いつ食糧難になるかも知れないので農地は出来るだけ農地として利用する様な誘導を望みます。</p> <p>(2) 市街地の整備を論ずる場合、常にそこで働く人達、住む人達がどんな人達であるかを問題にせねばならない。今後日本の人口は「減少を続ける」と予想されて居る。そんな中でも弥富市に限れば、まだまだ増加すると云われて居る。それでは10年先、20年先、50年先の人口構成を予測して下さい。若い家族持ちの人達は一戸建住宅を理想としますが、親との同居は望みません。人間は誰も老いて行きます。子供が独立して家を出ると、それまでの家は空室になります。更に高齢化した人達は持て余し気味になります。即ち庭の草取りをしたり、家の掃除、その他維持が簡単であることを望む様になります。要介護の人も増えることでしょう。土地区画整理を完了した平島は今後住宅が増えることでしょうが今迄の様にばらばらに一戸建を建てることを推奨するのではなく、共同住宅(含マンション)等社会資本効率の良し悪し、必要とする住人の変化(推移)も考えて、施策を立案してほしい。自分の家を作ることが一生で一番の買い物であると言う考えに固執するのではなく、老齢化すれば気楽に住める家に移り変わることを、ためらわない様な風習を広める(誘導)ことは有意義だと思う。住宅施策の総合的な指針づくりの中に此の様な考えを入れてはどうか。</p> <p>終戦直後の頃は新築耐用20年と云われていたものが今は50年と云われ福田首相からは200年と云う言葉も聞こえます。旧い家を見直し改修して使う気風も復活して来ました。私の隣家は今80才の私の記憶の中で4回目の新しい家の基礎工事をして居ます。此の様に短期間に何回も建て替えが必要となった主な理由は基礎が良くなかったと考えたのか、今度は素人目にもこんなに大掛りの基礎工事が必要かと思う程です。此の一連の工事を見て思うことですが、基礎を丈夫にすることは結構ですが、後日此の基礎を除去・改造する必要が生ずることは無いのか、その必要が生じた時のことも考慮して施工することは不必要であろうか?日本人の人口は徐々に減少すると云われるが、そうであれば建物の長寿命化と相まって、新築の必要数は縮小する。景気対策等と称して諸施策行われて来た。従来パターンからは脱却する必要がある。</p> <p>住み易く仕事がある所に人が集まるのは自然の理であります。数を増やすことよりも、質を良くすることに力点を置くこと、放置空屋無くする方策等も必要になるのではないかと。ゴースト化に対策は必要</p> <p>(3) 道路・交通網の整備により、現在の渋滞が解消される必要がある。しかし、ガソリン価格の高騰は渋滞により生ずる損失額を益々大きくする。渋滞によって生ずるであろう諸損失を目の計算でやってみるといかにも大きな額になることに気付くことでしょう。</p> <p>国、地方ともに財政状況が極めて悪い中で進める交通網の整備であれば、華やかな道路新設に目を奪われることなく、既存道の改良、渋滞の解消等、費用対効果を重視し、優先度を決めねばならない。一般庶民としては、何故小額ですむ渋滞解消策が中々実現しないのか、渋滞に会う度に腹立たしく思うのであります。ガソリン代が高くなればなるほど尚更です。個人が失う時間や、損害は表に出ないけれども、これを累計してみれば、短期間に応急対策費以上になることを繰返しではあるが強調する。</p> <p>(4) 港湾整備の殆どは名古屋港管理組合でやられて居ると思っております。港湾整備そのものは、単純で使い方にもあまり問題はないものの後背地に誘致する企業についてはよく吟味されねばなりません。一度そこに根を下し事業を始めると、情勢が変わってもなかなか置き換えることが困難だからです。例えば現在殆ど輸入が無くなった丸太、原木を扱う木工団地の如きです。ローテクの事業は開発途上国に移って行きます。ハイテクの事業は一時外国に流出したのもも回帰の風潮も出てきました。限られた港湾地区は、ハイテクの工場誘致をしたいものです。</p>	<p>土地利用について、合併も視野に入れた土地利用計画があってもよいのではないかと云うことですが、さらなる合併については、P110の(3)に示したように、道州制の動向等も勘案しながらこれから研究していく段階ですので、エリアも当然決まっていない状況であり、今回の計画の中ではお示しできないことをご理解いただきたいと思います。</p> <p>人口予測については、基本構想(案)P41・42に、平成30年度の予測と目標を示していますので、こちらをご覧ください。</p> <p>住人や住宅ニーズの変化を考慮した住宅施策をとということですが、基本計画(案)P9の(1)の①に示したように、住宅マスタープランの策定を検討しており、その中で検討を進めていきたいと思っております。</p> <p>渋滞対策については、P11・12に示した道路整備を積極的に進めることで対応していきたいと考えます。</p> <p>港湾地域の企業誘致については、P17の(1)やP90の(3)に示したように、質の高い物流ゾーンの形成に向けた優良企業の誘致に努めることとします。</p> <p>鍋田川埋立地の環境保全地区の指定と並木道の整備については、今回の計画への掲載は控えさせていただきますが、土地利用の計画も勘案しながら、今後研究を進めていきたいと思っております。</p> <p>太陽光発電の普及については、P20の(6)に示したように、公共施設への導入と民間住宅への導入支援を進めていきたいと考えています。</p> <p>生ごみをはじめとする廃棄物の3R運動については、P28の(2)に示したように、積極的に促進し、ごみを出さないライフスタイルへの転換を進めていくこととします。</p> <p>エネルギー・資源関連については、P19・20の環境自治体の形成に関する施策でふれていますのでこちらをご覧ください。</p>
----------	--	--

(5) 環境自治体の形成と謳ってあります。私は此の主張に意を強く致します。それで私は旧木曾川分流の鍋田川埋立地を木曾岬町との協議によって環境保全地区として定め、自然環境・景観維持を計る様に施策されることを期待します。美しい日本、美しい弥富市と考えた時、近くに木曾三川公園や「なばなの里」がありますが、此れ等とは多少趣の異なった形態でもかまいません。現在は木曾岬側の堤防には桜並木になっておりますが、弥富側は竹藪が多く、整備なされて居りません。美しい並木道を作ることは出来ないでしょうか。桜並木に限りません。むしろ桜とは異なる時期に一揃に咲く花木で、並木に向くものを選びたいものです。私は外国で見たジャカランダの並木が大変印象に残って居ますので参考までに添付します。かなり色々な所にある様です。すずかけ、まろにえ、ぼふら、いちよう、あかしや、さるすべり、紅葉、みもぎ、etc.

良い環境を維持すると一口に言ってもそれは容易ではありません。新エネルギーと云った場合、最も手近に考えられるものは、太陽光発電であり、又最良の方策だと思えます。広く此れが普及する様に施策をたてるべきと思えます。環境・景観を維持するためには、絶えざる努力が必要です。労働人口が減少して行くと言う時代ですからNPOを立ち上げて、多くの人の参加意識を喚起して、美しい弥富市を育てていきたいものです。参加者がその気になって色々アイデアを出し合ってやっていけばよいと思えます。

廃棄物処理等について、3R運動の促進とされて居りますが、発生量の多い家庭生ゴミの有効活用を考えるべきです。大部分が水分と思われる生ゴミを焼却し続けるのは全く無策と云わざるを得ません。古木材からバイオ燃料を作ると言う時代です。八穂焼却場を燃やすものが無いから一部運休する位、資源として活用する方策を進めて下さい。

此の基本構想の中には触れられて居ませんが、今後エネルギーと資源が問題になります。エネルギーに関しては曲折はあるものの最終的には太陽のエネルギーに依存することになると思えますが、現在は使い易く良質なものを消費して居る。マテリアルの確保が問題になります。原油価格やレアメタルの価格高騰はその先駆けと思わねばなりません。リサイクルは同等の品質のものを作るには、バージンマテリアルからよりも費用がかかることが一般的ですが、欠乏には勝てません。資源活用リサイクルの為、ゴミの分別の見直しも必要か？

終りに

私の小さい頃と比べると、大きく変わりました。日本は敗戦・民主主義と大きな変化にあいました。又科学面では人間が出来ると思い空想事とした多くのことを此の短期間のうちに実現して来ました。例えば原子力の利用、宇宙への進出、情報通信の高度化による社会全般の活性化等々、政治経済面では地球規模で事象が動き、影響が及ぶこと、又われわれの身近なことでは、家族の生活スタイルの変化、医療、福祉制度その他あらゆる面で著しい変化があります。

長期基本計画作成に於いては、出来る限り社会の変化に不具合を少なく対処出来る様になって居ることが必要ですが、一面芯になる基本の部分では一貫し変わらぬ施策が必要です。国政が地方の政治に影響を与えます。弥富市の計画にしても、当然国政に左右されますが毎年の財政の中から一定の割合だけは理想の弥富市実現のために充当する様な方策を望みます。細く長くと言う方策です。

現在原油の高騰で世界中騒いで居ますが、急騰している資源は他にも多くあります。地球規模ですべてが動く時代になって、人口の増加(60億→100億)の上、人口の多い後進国の生活レベル向上要求は資源不足になる大きな要因です。従って農業では自給率の向上を目指し、工業部門ではH I・T E C産業の優位性を維持し続け、商業関連では大量生産大量消費の時代ではなく、良い品を永く使用する方向に移っていかねばなりません。福祉関連の問題はその時々の問題として財政との関係で対処が決められて行くことでしょう。

追記 太陽光発電について

一般家庭に設置の補助金を出すのは、発電量/資金=補助金との関係では効率が良いが、市自体が率先して普及させることが望まれる。弥富市には宝川、筏川、水資源公団の水路等、日当りの良い場所を選び、毎年予算の一定%をこのことに充て、公共の施設の電力をまかなう様に考えられないか。勿論、新設の箱物施設には太陽光発電システムも予算に入れる。

<p>6</p>	<p>二章P. 19の主要施策(2)の「庁舎内における地球温暖化対策推進」とP. 20(6)の新エネルギー施策の推進に関連する意見・提言</p> <p>提言1 「公共施設の雨水利用について」</p> <p>東京の墨田区で取り組みが始まり、今では全国さまざまな地域や個人で、雨水利用への理解が徐々に広がり、実践に移されつつある。新しく建てられた弥富中学校でも、雨水利用ができるようになってきていると聞く。庁舎だけでなく、市の公共施設で雨水利用が行われることは二重にも三重にも意義のあることではないかと考える。</p> <p>一つには、その公共施設を利用する市民への啓蒙である。市が率先して雨水利用に取り組むことは、身をもって、環境問題への意識高揚を市民に広げることになる。とりわけ、学校施設での雨水利用は、総合学習で環境問題を身近な問題として生徒たちに学習させることにつながる。</p> <p>二つには、災害対策にもなるということである。いざ災害が起こったときは、まず必要になるもののひとつに飲み水確保がある、雨水は元々蒸留水であり、初めの数秒の大気中の塵を含む雨水をカットすれば、100%純粋な水である。普段は、公共施設のトイレの水や草木の散水、公用車の洗車などに使い、災害時には、これが簡単な濾過装置によって、飲み水に使えることになる。</p> <p>現在、雨水利用の装置は、いろいろ開発されており、家庭などでは雨樋から雨水を取り入れることによって、簡単に雨水を手に入れることができる。前述の墨田区のように、住民が雨水利用をする場合の補助金制度を行うことも、ひとつの具体的実践である。公共施設への雨水利用からさらに一般家庭での雨水利用へと広げたい。</p> <p>今後、各自主防災組織が、さらに整備されていくと思われるが、災害時の飲み水確保が市としてされているということは、住民にとって安心感を持ってもらう上で、大事なことではないだろうか。</p> <p>参考までに、前に勤めていた、立田中学校で試算してみたことがあるが、年間の校内の水道使用量よりも体育館と2棟の校舎の屋根に降る年間降水量の方が上回った。弥富市の単位面積あたりの平均降水量はインターネットで調べれば分かるので、庁舎で年間使う水道量と比べてみられることをおすすめする。市の公共施設で、さまざまな取り組みをした上で、そのデータを広報などで住民に知らせ、一般の家庭でもやってみようという気運が広まるとおもしろい。</p> <p>提言2 「公共施設での太陽光発電の設置や屋上緑化、壁面緑化の取り組みについて」</p> <p>我が家でも、現在の家を新築する際、利益は度外視して屋根に太陽光発電の装置をつけてもらった。当時、国の補助制度があり、経済的にも助かった。また、この装置を付けることで、節電や環境問題にも以前より関心を持つようになった。</p> <p>現在、太陽光パネルも当時よりも格段に改良され、効率の良いものが開発されていると聞く。</p> <p>まず公共施設が、率先して太陽光発電や屋上緑化や壁面緑化に取り組んではどうか。公共施設での取り組みから一般家庭での取り組みへと広げる流れがつかれるのではないかと思う。</p> <p>太陽光発電への補助金制度を弥富市でも開設したようなので、大々的に宣伝し、環境に優しい街「弥富市」をアピールしてどうか。</p>	<p>公共施設の雨水利用については、P19の(2)に示したように、水道や電気、燃料の使用量の削減を図るため、導入に向けた検討を進めていきたいと考えます。</p> <p>なお、市民の雨水利用については、P24の(4)に示したように、廃浄化槽利用による小規模雨水貯留施設設置の促進に努めていくこととします。</p> <p>太陽光発電については、P20の(6)に示したように、公共施設への導入と、民間住宅への導入支援を進め、全市的な取り組みへと広がるよう努めていきたいと思えます。</p>
<p>7</p>	<p>二章P. 34の7.「消防・防災の充実」に関連する意見・提言</p> <p>「防災訓練について」</p> <p>私の今住んでいる中之割自治会では、先日「防災講座」を開き、住民の防災意識の高揚の取り組みを行った。今後防災訓練のあり方をこれまでのものからさらに一歩進めたものにしたいと考えている。自治会によって、防災への取り組み方に大きな差があるのが現状である。防災についての市の85%の補助という手厚い補助金制度が設けられ、市としての並々ならぬ防災への意気込みを感じることができる。今後は住民の意識が高まり、どの自治会でも防災訓練が災害時に役立つものになるようにしていかなければならないと考える。</p> <p>そのために、今取り組まれている各種の防災講習が、その場かぎりのものであったり、個々の行事が繋がっていなかったりではなく、住民全体への広がりや継続的なものであることが必要であると思う。</p> <p>具体的な方策として、</p> <p>①地域ごとに防災講座を順次開いていく。</p> <p>②消防団・消防署の協力を得て、実践的な防災訓練を地域ごとに順次行っていく。</p>	<p>防災訓練については、本市にとって非常に重要なことであると認識しています。ご意見の中にもありますように、地域住民の方々が主体的に行い、自ら危機対応力を高めていくことが必要であり、市としてはそれを積極的にバックアップしていくこととし、P36の(4)②に示した方針にあるように、防災に関する広報・啓発活動の推進や防災訓練の実施を図り、市民の防災意識の高揚と危機対応力の向上に努めていきます。</p>

	<p>③これらの取り組みを住民全体のものにしていくために、区長・区長補助員の会合をおこない周知徹底していく。</p> <p>最近の地震のニュースを見ていると、予断を許さない段階に来ていると思う。</p> <p>市としても、さらに本気になった取り組みをし、住民をリードしていく必要があると思う。</p> <p>防災対策は誰もが必要だと思いつつも、なかなか足を踏み出せないものだからである。</p>	
8	<p>基本計画第四章P. 73の4. 文化芸術の振興に関連する意見・提言</p> <p>「社会教育センターのホールの使い勝手について」</p> <p>毎年、各種文化団体が発表の場として利用している。</p> <p>今後ますます、市民が文化を愛し、自主的に発表の場を設けていき、この街が文化の香り高い街になっていくことを願って、社会教育センターのホール使い勝手の悪さをいくつか指摘させていただきたい。</p> <p>①ステージが狭く、広さに余裕がない。せめて50人～60人が演奏できるスペースがほしい。</p> <p>②照明設備に欠陥があり、音響効果のための天板を設置すると、照明が使えない。あきらかに設計ミスである。</p> <p>③ステージを発表の場として使うとき、専任の職員が配置について、音響(マイクなど)、照明などに慣れていない団体のアドバイスをしてほしい。</p> <p>そのため、現在のホールを改造するか、新たな施設をつくる必要がある。市にふさわしいホールがほしい。</p> <p>文化芸術の振興に、立派なホールは欠かせないと思う。</p>	<p>総合社会教育センターの使い勝手の悪さと新たな施設の整備については、ご指摘のようなことに対応するため、P68の(2)の①③に示したように、施設の整備充実・有効活用に努めるとともに、文化ホールや資料館等を備えた新たな生涯学習拠点施設の整備検討を行うこととしており、既存施設の整備充実と新たな施設の整備検討を進めていきたいと思っております。</p>
9	<p>二章P. 23の3. 「下水道の充実」に関連する意見・提言</p> <p>「各家庭の合併浄化槽設置について」</p> <p>下水処理については、流域下水道やその他、自治体としていくつかの取り組み方がある。環境問題を考える際の、ひとつのキーワードは「地産地消」の考え方ではないかと考える。</p> <p>下水処理で言えば、出た汚物はできるだけそこで処理をすることである。今、我が家で起動している浄化槽は合併浄化槽で、汚泥も出ない優秀なものであると自負している。これを各家庭が使えば、家の近くの用水にそのまま流せばよく、あちこち地面を掘って、新たに下水道をつくる必要もないわけである。これについても、合併浄化槽に対する補助金制度を設け、全家庭が取り付けられるようになれば、市の公共工事に費やす予算が格段に安くなる。</p>	<p>当地域を流れる日光川等が流入する伊勢湾は、富栄養化が進行しており赤潮の発生等が問題となっておりますが、下水道は、窒素及びリンの処理方式が確立されており、富栄養化対策のひとつとして有効です。</p> <p>下水道では放流水質に関する基準が合併浄化槽に比べて厳しく定められており、これをもとに地方自治体が責任を持って管理することとなりますが、合併処理浄化槽は通常、管理が個人の責任とされているため、定期的な点検など維持管理が適正に行わなければ、期待された機能が発揮されない場合もあると考えられます。</p> <p>合併処理浄化槽は、下水道が完全に整備されるまでや地形的な補完対策としては、有効な処理方式です。しかしながら、最終的には下水道に切り替え、次世代にも引き継がれる重要な社会資本として整備されることが適切であると考えます。</p> <p>なお、合併処理浄化槽設置に係る補助につきましては、平成4年度より補助制度を設けております。</p>

<p>10</p>	<p>■ 駅周辺の開発について (P7、P12)</p> <p>具体的に踏み込んだ内容として JR・名鉄駅の橋上化、鉄道駅のエレベータ設置が挙げられていますが、基本構想に対するパブリックコメントでも議論されていたように、橋上化は駅舎の利便性が改善するだけで、弥富の玄関口として周辺の魅力を増すためには不十分です。一方、第3回総合計画審議会の議事録には、市長より弥富駅(近鉄・名鉄・JR)の総合的な開発計画についてプロジェクトチームが立ち上がった旨、記載があります。</p> <p>「弥富駅周辺環境の充実＝駅の橋上化、エレベータの設置」</p> <p>などの各論をいきなり持ち込むのではなく、総論についてもっと幅広い視野、十分な見識でもって議論し、優れたアイデアを取り込んでいく姿勢が重要と考えます。市民や専門家の英知を集め、まさに市を挙げてのプロジェクトとして取り組んでいただきたいのです。</p> <p>そのためにも、プロジェクトチームの活動を広く開示し、行政と市民のお互いにとって納得感がある形で進めて下さい。またこのようなプロジェクトにおいては、老若男女問わず幅広い層のメンバーで議論することを希望します。同じ議事録にて審議会会長殿の発言にある「駅～市役所～歴史民俗資料館までをモデルエリアとする案」などのように、夢のある計画をもっと自由闊達に行っていただければと思います。</p> <p>また駅周辺の再開発には、弥富市の玄関口としての機能を拡充する意味でも、商業振興との連携が不可欠であると考えます。そのためにも、P86～P87にある「商業の振興」の主要施策の中で駅周辺の再開発に触れていただき、成果指標に具体的目標を設定することを望みます。</p>	<p>ご指摘の、「市をあげてのプロジェクトとしての一体的な開発」については、市としても、もちろんそのような姿勢で検討・推進することを考えています。基本計画(案) P7の(2)の②に示したように、「～を含め、駅周辺市街地のまちの顔としての一体的な整備を検討・推進します」としており、部分部分の整備ではなく、駅舎や駅周辺の道路、住宅、商店街などを含めて一体的なエリアとしてとらえ、市民をはじめ様々な方々の英知を結集しながら進めていきたいと思っております。商業の振興との連携についても、ご指摘の通り重要なことと考えており、P87の(3)に「市街地整備や道路整備など都市基盤整備と連動した」と表現したように、駅周辺の整備と商店街の環境・景観整備を一体的にとらえて進めていくこととしています。</p>
<p>11</p>	<p>■ 成果指標の設定(全項目を対象)</p> <p>基本計画で示される平成25年度の成果指標の設定に幾つか疑問を感じています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 何を根拠に目標(数値)設定しているのか不明</li> <li>・ (根拠が不明なので)目標達成後に描かれる弥富市の姿が分かりづらい</li> <li>・ 直接的な目標ではなく、間接的な目標である「まちづくりアンケート調査」の満足度の改善のみしか成果指標に掲げていない項目がある(例えば P85, P104 など)</li> </ul> <p>成果指標の中には、弥富市のあるべき姿が具体的に示されず、抽象化された目標を無理やり定量化しているものも見受けられます。また、たびたび指標として設定されている「まちづくりアンケート調査の満足度」の改善は、毎年実施してデータの傾向性を把握できているわけではないため、サンプリングする集団を変えるだけでデータが大きく変動することが懸念されます。例えば P93 の「観光の振興に関する市民の満足度」が平成19年から平成25年の間にわずか2.6%増加することのみを目標に掲げていますが、実質的な満足度の上昇というより、バラつきによる増加ということも考えられることから、真の成果を問うことにおいて意味を持たない危険性があると思っております。また、主要施策を幾つか掲げている中で、成果指標の達成のみに注力することがないよう、定量化されていなくても構わないので、施策ごとに具体的な目標と達成に向けたスケジュールを掲げて開示すべきと考えます。</p> <p>また成果指標として掲げる具体的施策については、行政側だけでなく、審議会メンバー、外部コンサルタント、市民など幅広くアイデアを募ることも重要だと思っております。</p>	<p>ご指摘の成果指標の根拠については、それぞれの担当課において、当該指標に関する現状や今後の見通し、社会・経済情勢など様々な要素を勘案し、十分議論・検討した上で設定したものです。</p> <p>また、「まちづくりアンケート調査の満足度」は、行政全般における顧客満足度の重要性が叫ばれる中、市民の満足度を直接的に調査・把握する重要な手段であると考えており、今後、できる限り同じ条件によって定期的の実施し、その推移をみながら目標数値の修正等を検討していきたいと考えています。</p> <p>「定量化でなくても構わないので、施策ごとの目標とスケジュールを」ということについては、今回は、「最上位計画である総合計画として、37の施策項目ごとに、成果・効果を表す代表的な指標を数字で設定する(その他細かな指標等については個別計画の方で)」という方針で設定したものであり、ご理解いただきたいと思っております。</p>
<p>12</p>	<p>■ 商業の振興について (P86～P87)</p> <p>活力を生むまちづくり活動として、商業の振興は重要な施策と考えますが、成果指標にも現れているとおり極めて消極的な目標設定に見受けられます。大型店舗や飲食を中心とした大手チェーンなどの進出により事業所数、従業者数に大幅な落ち込みは見られませんが、地域に根づいた個人商店などの自営業者は確実に衰退しています。強いブランド力を持ちスクラップ・アンド・ビルドを繰り返すことで事業を発展させる大型店や大手チェーンと異なり、地域密着型の商店を育成するためには長い年月を要します。特色ある商店などは、弥富市の顔となり、市外からの集客も見込めるなどまさに弥富市が交流拠点となり得る要素を持ち得ます。それらを踏まえると、商業活動の促進にもっと力点をおき、事業所数、販売額の増加を目指すだけでなく、地域の活性化に貢献できる事業者を市内、市外から募り、計画的かつ戦略的に商業の「再生」、「育成」に取り組める施策および成果指標の設定が望ましいと考えます。また上記でも述べた駅周辺開発とリンクし、プロジェクトチームの中で商業振興について議論すべきです。今回の基本計</p>	<p>「商業の再生、育成に取り組める施策及び成果指標を」ということですが、施策については、基本計画 P87の(2)・(3)に示した通り、ソフト+ハードの取り組みを一体的に進めていくこととします。成果指標については、行政の努力とともに事業者の努力が大きく影響することですので、その成果の具体的な数値目標の設定は極めて困難であり、今回は控えさせていただくこととします。</p> <p>また、「商業振興について継続して協議できる仕組みづくりを」ということについては、ご指摘の通り重要なことですので、</p>

	<p>画で具体的な施策まで踏み込めなくても、継続して協議できる「しくみ」作りを明示してください。現在の商工会の力量だけでは、不足感を否認しません。</p>	<p>P87の(3)の2行目を「のもと、本市の商業振興について検討を進めながら、市街地整備や道路整備～」と修正します。</p>
13	<p>■環境自治体の形成について (P18)</p> <p>地球全体の環境保全という大きなテーマに市として取り組むことはもちろんですが、弥富市は水と緑の美しい自然環境を有する都市であり、これらを後世に残していくことも地方自治体として重要な役割を持ちます。それらの自然環境は市の特色となり、観光資源となり、子供達が田んぼや川で自然に触れ合える自然学習の機会を生み出すなど、弥富市の価値を向上する大きな柱となります。その意味では、自治体として取り組む活動の優先順位として、地域の自然環境の保全が第一になるかと思えます。</p> <p>ところが、成果指標としては、エコカー導入台数や、環境クラブを組織する学校数、太陽光発電の設置が設定されています。例えばエコカーの導入などは、予算さえあれば単年度でも実施可能であり、かつ環境保全に対して期待される効果が不明確なことから、成果として問うことに違和感があります。環境自治体の形成を問うのであれば、例えば河川・地下水の水質データの改善や生息する生物達の保護状況など、自然環境が維持・向上されていることを直接的に測れる指標を導入すべきではないでしょうか。</p>	<p>ご指摘の、「自然環境が維持・向上されていることを直接的に測れる指標を導入すべき」ということについては、ご指摘の通り重要なことですので、成果指標に、「河川の水質汚染濃度(宝川)」を設定し、BOD(生物化学的酸素要求量)の改善数値を目標として設定しました。</p>
14	<p>基本計画P24</p> <p>いきものの命の水を奪う流域下水道 合併処理浄化槽の普及で死んだ川を蘇らそう。一人当たり一日に約0.3トンの上水を使うと言われていて、人口4万人のまちで、12000トンの上水を使います、これを合併浄化槽で浄化すれば12000トンの水源になります、ふるさとの川に清流が蘇ります。合併浄化槽は下水処理場と同じ原理で有機物(栄養分)をバクテリアに食べさせて浄化し、出てくる水は透明で、鮎が棲めるほどの浄化能力をもっています。新築・増築には法律で合併浄化槽が義務づけられました。工事費には補助金がでますので、今後は合併浄化槽が普及していきます。蟹江町では600世帯マンションの合併浄化槽ができたおかげで、水路に年中浄化された水が流れるようになり、魚がもどってきました。流域下水道の場合は逆に小川の維持用水を奪うこととなります。合併浄化槽が、メダカやトンボのすみかとなる川を美しくする水源になるなんて素敵だともいいませんか。</p> <p>(改善提案)</p> <p>汚水処理人口普及率を合併処理浄化槽含まない数値と、合併処理浄化槽による人口普及率の二つの数値で管理する。全体数値だけでなく小字程度のブロック別に数値を管理する。</p> <p>理由は合併処理浄化槽が普及している現実を無視して、間雲に公共下水道化するのは財政上大変危険です。合併処理浄化槽が相当数普及しているブロックは後回しにするなど、効率的な執行が重要。下水道の恐ろしさは、最初の管敷設は補助がつくので楽なのでつつい無駄な管を敷設してしましますが、更新には補助がないのであとでびっくりしてしまうことです。人口密集地である大都市でさえも、この更新が利用料金でまかなえないことに悩みそれが、財政破綻の原因になっています。</p>	<p>下水道が完全に整備されても、自然の排水量(地下水・雨水)は河川流量として残るため、川の水が枯渇することは無いと考えます。</p> <p>また、当地域を流れる日光川等が流入する伊勢湾は、富栄養化が進行しており赤潮の発生等が問題となっていますが、下水道は、窒素及びリンの処理方式が確立されており、富栄養化対策のひとつとして有効です。</p> <p>下水道では放流水質に関する基準が合併浄化槽に比べて厳しく定められており、これをもとに地方自治体が責任を持って管理することとなりますが、合併処理浄化槽は通常、管理が個人の責任とされているため、定期的な点検など維持管理が適正に行わなければ、期待された機能が発揮されない場合もあると考えられます。</p> <p>合併処理浄化槽は、下水道が完全に整備されるまでや地形的な補完対策としては、有効な処理方式です。しかしながら、最終的には下水道に切り替え、次世代にも引き継がれる重要な社会資本として整備されることが適切であると考えます。</p>
15	<p>1. 地盤沈下について</p> <p>弥富市における地盤沈下は、明治18年から現在までの120年余の間に、市の西部の平島で152cm、東部の東蜷で229cm(水準点)に達しており、現在はやや小康状態を保っている。しかし、近年農業用水路の水位上昇時には(とくに降雨時)鯛浦町付近では低平地のため家庭下水の排水が困難になり、とくに降雨時にはその被害が目立つようになってきた。</p> <p>次頁の図-1の縦横断図は、弥富市北部の現況地盤高(平成15年)を模式図で表したもので、これに昭和34年の高さをプロットしている。これより、現在は同年の伊勢湾台風時の地盤高よりほぼ1m沈下していることがわかる。また、図-1から台風時の湛水位(+0.6m)※1からは水深が3m近くに達することがわかる。従って、自然災害時の対応の困難さが想像できるとともに、今後の排水・地盤沈下対策などインフラ整備が一層重要になってくる。</p> <p>2. 地震時の液状化について</p> <p>地震時の液状化による被害は、地震の揺れによる被害よりも大きいとされているが、</p>	<p>ご指摘の排水対策・地盤沈下対策は、市としても、地理的・地形的特性から、非常に重要なことと認識しています。このため、審議会のご意見等も踏まえ、今回の基本計画(案)の施策項目でも、一般的には「消防・防災」関連の施策項目の中に含まれる場合が多いところを、本市では「治水安全度の向上」として1項目独立させて展開しています。今後、国・県との連携のもと、積極的な対応を進めていきたいと思えます。</p> <p>また、液状化関連についても、非常に重要なことと認識していますので、消防・防災や治水、住宅、道路などの分野において、</p>



	<p>弥富市の場合ほぼ全域で液状化が生じる。すなわち、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 液状化は、ゆるい砂質地盤で地下水の高いところに生じ、液状化の深さは10m付近まで（限界深さは20m）である。震度5以上の地震から発生がはじまる。</li> <li>② 液状化により、地盤の噴水・噴砂や沈下・流動化が生じ、構造物や家屋の沈下傾斜、田畑の陥没、管路などライフラインの沈下・浮き上がりなど被害が起こる。</li> <li>③ 噴砂の場合、その範囲は直径数10cmから10m余におよび、場合により平面的に広がることもある。噴砂による沈下は、砂層厚さの5%程度（砂層厚さが10mの場合50cm）に及ぶとされている。</li> <li>④ 地震による沈下の調査結果からは、海部郡では濃尾地震で9～21cm、東南海地震で30～60センチという数字が報告されている。そのほか、明治18年以降の弥富市水準点測量（表-1・図-2）からは、2つの地震の液状化による沈下量を推定すると表-2のようになり、いずれにしても将来生じるであろう巨大地震では30cm程度の沈下が予測されることになる。（表、図は省略）</li> </ol> <p>3. 液状化の対策</p> <p>液状化対策工には、杭基礎工・地盤改良工・補強材工などいろいろあるが、どれも高価になるのが難点である。そのうち、一般の家屋に使用し易い工法をあげる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① ベタ基礎（例 厚さ22cm、鉄筋D13 200 ピッチ上下） 建築基礎を鉄鋼入りのコンクリートのベタ打ちにして、その上に基礎を立ち上げるもので、下部の地盤は良質土に入れ替え（厚さ2m位）よく搗き固める。その下には、基礎周辺を含めてジオテキスタイルなどの化学布を敷き詰め家屋の沈下の際の荷重分散を計る。</li> <li>② 杭基礎 杭基礎は、長さ40m以上の杭を用い先端支持杭とするのが良いが、相当高価になる。短杭を用いる場合は、少なくとも液状化層（砂層約10m）を貫入する長さ以上とし、周辺摩擦杭の計算を行う。</li> <li>③ 近年、液状化対策として地盤に空気泡を注入する工法が研究中（耐久性などが課題）であり、これが完成すれば比較的安価で既存建物にも利用できるとのことで、完成が期待される。</li> </ol> <p>地盤沈下の要因としては、揺れによる砂質層の液状化のほか、地下水の過剰汲み上げ、泥層の自然圧密、濃尾平野の傾動沈降などがあるが、ここでは影響の大きい地震時の液状化についてとりあげている。</p> <p>※1 伊勢湾台風湛水位+0.6mは、仮締切り（ドラム缶工法）の計画高さ。</p>	<p>実際に事業を行う際には、いただいた資料や工法を参考にさせていただいきと思います。</p>
16	<p>第2章 1 主要施策（1） P19に関して</p> <p>名港、西部臨海工業地帯、道路交通の要衝という地形、立地条件が水郷地帯、多くの農地をもつまちであるにもかかわらず、呼吸器疾病につながる粒子状浮遊物質が早くから環境基準をこえています。</p> <p>当市が交付税不交付団体となった要因の一つにこの立地条件があります。この収入の一部を巡回バスの費用とし市民生活での車の使用を減少させ、公害の防止、温暖化防止、市民の健康を守り、高齢者等の外出の機会を保障する対策の中心にしっかりと位置づけて下さい。</p>	<p>ご指摘の「巡回バスにより車の使用を減少させ、公害の防止、温暖化防止、高齢者等の外出機会の確保等を進めることを位置づけてほしい」ということについては、市としても重要なことと認識しています。P12（P19ではなく）の（7）を「巡回福祉バスについて、市民の利便性の向上はもとより、公害の防止や地球温暖化の防止、高齢者等の外出機会の確保なども見据え、効果的な運行体制を検討し、その充実に努めます。」と修正します。</p>
17	<p>3 下水道の充実 P23～25に関して</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 当市の下水道計画策定時に総務省より、将来の市民と行政の財政負担も具体的に示し、合意と納得のもとに計画を進めるようにとの町長、議長にも直接要請がありましたが、当時県と町は、交付税処理による多額の支援があるので、長期的には実質黒字となると発表していました。 一方で当時の説明でも企業会計とされる人件費、事務費は試算に含まれていないこと。金利支払いが入っているが、減価償却費などは含まれていないものでした。 交付税交付金での支援が見込めなくなったことをはじめとする諸条件が大きく異なっているも、実際の収支計画とそれにそった持続可能な事業計画、財政計画を早急に示し、市民合意を得るべきです。</li> <li>② 平成4年から、18年度までに平島の事業認可区域以外の弥富町と市の合併浄化槽</li> </ol>	<p>行財政をとりまく情勢は大きく変化しております。</p> <p>この総合計画では基本計画p24（1）に「財政状況を勘案しながら、公共下水道事業を計画的効率的に推進」と記述しておりますが、事業計画・財政計画につきましては、時点・時点で見直しを行い、皆さま方にお示しすべきと考えております。</p> <p>二重支出を防ぐことにつきまして、浄化槽法が改正され、新築の際合併浄化槽が義務付けとなりましたが、下水道整備には、</p>

	<p>(個人)の設置は国、県、町の補助金あわせて約3億2千万円 611基、約4,600人槽(21~50人槽 12基含む)となっております。</p> <p>イオンタウンをはじめとする商業施設や集合住宅、公共施設なども能力の高い浄化槽を設置しているところも少なくありません。</p> <p>省エネルギー、省資源や国、県、町の補助金の二重支出をふせぐためにも、また早期に下水処理を整備し、住宅地周辺の排水路を生きた小河川とし地盤沈下防止や、多様な生態系を保持するためにもこの活用をはかるべきです。</p> <p>特に近いところでの巨大地震の心配が高まっているときだけに多様な生活排水処理のしくみを残すべきです。</p> <p>愛西市等では市の下水処理計画のなかに合併浄化槽も入れておりますが、弥富市はそっくり除外しております。</p> <p>まず計画の早期見直しを行うべきです。</p>	<p>長い時間がかかりますので、下水道が完全に整備されるまでの間は有効な処理方式であります。そのため、一時的に余分な負担が生じることもあると考えられますので、出来る限り早期に下水道を整備しその圧縮に努めてまいりたいと考えます。</p> <p>合併浄化槽の位置づけであります。ご指摘のとおり現時点では下水道整備計画の中には入っておりませんが、今後、計画の見直しについて検討してまいります。</p>
18	<p>4 P26~28に関して</p> <p>3R運動を促進し、市民の満足度をあげるとし19年実績と、25年度の目標が示されているが、市や市民の参加と努力の実態を表すものとはなっておりません。</p> <p>平成13年度の旧弥富町が収集したゴミ量は7,489tであり、そのうち空き缶とビン391tがリサイクルに、また、町内の各種団体による資源ゴミとして回収されリサイクルにまわされたものが、2,065tで25.8%がリサイクルにまわされ、この他にも不燃物や粗大ゴミの一部がリサイクルにまわっております。</p> <p>こうしたとりくみをきちんと位置付け、発展させるその結果を公表することなしには市民の協力への評価や達成感はえられないのではないのでしょうか。</p>	<p>ご指摘の通り、市や市民の参加・努力の実態を表すものとして、成果指標に、「資源回収量(集団回収を除く。)」を設定し、回収量の増加を目標として設定しました。</p>
19	<p>第6章 4 P105~106に関連して</p> <p>計画策定の目的にふさわしい市民の声が反映される審議会委員の選出と運営について</p> <p>計画策定の目的では、合併をふまえた直近の市民ニーズの動向等をふまえ、まちづくりの経営指針として、「弥富市総合計画」を策定するとしています。</p> <p>計画の役割は「弥富市民にとって まちづくりに参画協働するための共通目標」「弥富市政にとって、自立したまちづくりを進めるための経営指針」と総合計画(案)で定めています。</p> <p>パブリックコメントなど従来にない努力はされておりますが、審議会委員が各種団体長、市の有力な補助団体長では、事実上市の下部組織の意向が強く反映されるものとなります。</p> <p>今回はもう対応できないと思いますが、市の基本的な諸計画を市民と協働のためにつくるというなら、一定数を公募委員とし、さまざまな立場の意見が計画策定時から反映され、議論がつくされることを強く要望いたします。</p>	<p>今回の総合計画の策定にあたっては、本市としては初めて公募委員によるまちづくり会議を開催し、市民の代表の皆様のご意見、ご提言をお聴きしました。</p> <p>今後とも、基本計画P106の(3)の①に示したように、委員の公募等も導入し、計画策定等への一層の市民参画・協働を進めていきたいと思っております。</p>
20	<p>基本構想意見20への回答に関連して</p> <p>「市の今後10年間の収支見直しについては、景気の動向、国の動向等があり、長期的な見直しを設定、公表することはきわめて困難、短期的に調整しながら財政見直しをたてていきたい」とされております。</p> <p>先の合併時には旧十四山村では数年後には、このままでは村は財政ハタンするという収支見直しをたて、即合併という村の方針に従わないものは「非国民」であるかのようなあつかいをうけ、村の公職者会を母体として、それを批判した議会を解散させました。</p> <p>旧弥富町では20%の財政カットが必要だという行革大綱が発表されました。</p> <p>少なくない市民のみなさんから事実と大きく異なるためにするものというきびしい批判があり、現在となつては、当局側の発表により、批判者の主張がはるかに実態に近いものであったことはだれの目にも明らかです。</p> <p>行政にとって命とも言える財政問題を見通せる幹部職員を適切に配置しないままに弥富町の17年度決算は、歳入では当初予算が決算額の91%、予算現額の96%、歳出では同じく97%、103%で前年度にくらべて、19億5,000万円の財政削減が必要と発表されたにもかかわらず、財政支出は5億3千万円増加したにもかかわらず歳計現金と一般会計の基金は3億3千万円の増加となっております。</p> <p>新年度の市町村の基礎的収支は、7月末にはほぼ明らかになる仕組すら活用されていない状態が長く続いていました。</p> <p>こうした制約のなかでも他の市町村の多くは10年、20年の財政計画をもち必要に応じて修正しています。</p>	<p>財政状況や財政見直しについては、この総合計画の策定にかかわらず、行政情報の提供・公開の一環として、適宜、広報、ホームページ等を通じて公表に努めたいと考えています。</p> <p>また、成果指標の目標を10年にとのことですが、目まぐるしい社会・経済情勢の変化に対応するため、基本計画は前期5年、後期5年と設定しており、中間年度で点検・評価し、その進捗と時代変化に即した見直しを行う予定です。従って成果指標も5年後の目標とし、点検・評価・見直しを行いますので、ご理解いただきたいと思っております。</p>

	<p>こうした問題点の指摘を受けようやく前市長時代にも次の総合計画は財政計画をともなったものとする議会答弁が行われ、現市長に変わってからは、私どもの求めに応じられ、可能な限り直近の財政資料が公開されております。</p> <p>合併時のような恣意的な財政数値の使用をしなければ、景気の変動や国の制度の変更にともなう財政事情の変化はだれもが納得するものです。</p> <p>中長期の事業計画、財政計画をもたない行政運営の弊害は桜小学校のマンモス化や最近では、その解消、庁舎の耐震、弥生保育所の更新事業など、国の補助金があまり望めない事業が目前にせまっているなかで 19 年度の臨時財政対策債の辞退などは、こうした時期の事業財政計画についても市の幹部のあいだでの一致ができていないことを示しているのではないのでしょうか。</p> <p>市民と協働、議会の役割を尊重というなら制約付であっても要となる財政見通しを示し現状についての共通の理解を深める行政のイニシアチブを強く求めるものであります。</p> <p>なお、数値目標も多くが5ヶ年となっておりますが、10ヶ年とされることを求めます。</p>	
21	<p>第2編 基本構想 P54</p> <p>4、人が輝き文化が薫るやとみ</p> <p>(1) 学校教育の充実</p> <p>この部分に「平和教育の推進」を入れていただきたいと思います。</p> <p>いま、世界のあちこちで戦争や紛争がつづいています。イラクへは航空自衛隊が空輸活動に派遣されています。4月名古屋高裁は、「自衛隊のイラク派遣は憲法違反」という違憲判決を下し、判決は確定しています。</p> <p>世界ではじめて被爆国として、また「平和都市宣言」をしている弥富市としては、とりわけ子どもたちへの平和教育が求められています。戦争を知らない大人や子どもたちが増えている中、広島・長崎の原爆記念式典に児童・生徒を派遣し、被爆写真展を開くなど、平和教育の推進をぜひ加えていただきたいと思います。</p>	<p>ご指摘の通り、学校教育の中での「平和教育の推進」は重要なことと考えます。基本構想部分ではなく、基本計画P65の(2)の②の2行目を「～人権教育、道徳教育、福祉教育、平和教育、男女平等教育の充実を図る～」と修正します。</p>
22	<p>第2編 基本構想 P65</p> <p>重点構想4 テーマ交流 全市交流拠点のまちづくり構想 主要な取り組みに</p> <p>●「巡回福祉バスなどの充実」を加えて下さい。</p> <p>①十四山地区の東部は、生活圏が蟹江町、飛鳥村となっています。買物・通院・通勤・通学などで三重交通バスを長年利用してきた人が多くいます。三交バスは走っているのに、十四山地内の2つのバス停が廃止され、大変不便になり困っています。バス停の復活を切望する住民の願いに答え、蟹江町・飛鳥村・三重交通と協議していただきたいです。</p> <p>②巡回福祉バスを十四山東部地区から海南病院、市役所、佐古木駅へ早い時刻に効率よく行けるように、コース、時刻、バス停などの見直しを早急に行ってほしいです。現行では「空気を運んでいるだけでもったいない」と、利用したくても利用できない住民は嘆いています。行政、ダイヤ作成の経験者など公募による市民参加型の検討委員会を早急に立ち上げ、改善を図ってほしいです。</p>	<p>ご指摘の「巡回福祉バスの充実」については、既に基本構想P65の重点構想4の主要な取り組みの5番目に位置づけているほか、これに基づき、基本計画においても、P12の(7)に主要施策として一項目起こして計画化しており、ご指摘のような検討・改善を進めていくこととしています。</p>
23	<p>基本構想(案)・基本計画(案)について、</p> <p>両(案)とも、作成の基本となる理念が抜けていると思います。</p> <p>即ち、「憲法及び地方自治の本旨に基づいて」作成するのが基本理念だと考えますが如何ですか。</p>	<p>本計画の作成にあたっての基本理念・視点については、基本構想P3の(2)計画の役割及びP5の(4)計画の特徴に、基本的にどういう役割・特徴を持った計画として作成したかを示しています。</p> <p>また、本計画全体を通じた内容的な基本理念・視点については、本市の特性や時代潮流、市民ニーズの動向、そして主要課題のとりまとめ(序論部分)を踏まえ、基本構想P33に、すべての分野にわたって基本とする新たなまちづくりのキーワードを4つ設定しており、今後弥富市は、常にこれらを基調としたまちづくりを進めるという展開としています。ご理解いただきたいと思います。</p>

24	<p>基本構想（案） （4）計画の特徴 P5</p> <p>本計画は、…行政改革との連動など、新たな視点を加えた“新しいタイプの総合計画”として策定した…と3つの特徴をあげています。とりわけ問題なのは2つ目「より一層効率的な経営と成果の評価が行える計画」の内容です。今日、「行政改革」「民間経営理念・手法」「より一層効率的な経営」による介護・医療・保健・学校給食・派遣労働・名ばかり管理職・過労死など、社会的な問題が噴出している根源をしっかりと見る必要があると考えますが、如何でしょうか。「小泉構造改革」によるこの5年間の社会・経済・教育などあらゆる問題の根源を考える必要があると思います。</p>	<p>「より一層効率的な経営と、成果の評価が行える計画」という計画の特徴については、行政全般について、資源を有効に活用して今よりも無駄のない簡素で効率的な運営を行うという意味であり、いきすぎた改革等により弊害が噴出するようなことを想定したものではありませんのでご理解いただきたいと思います。</p>
----	---	---

意見募集時の公表資料

弥富市総合計画基本計画(案)

■閲覧場所及び問合せ先

企画政策課 企画政策グループ 電話0567-65-1111 内線332